

令和6年度 園評価書

園番号 3 園名 安倍口中央こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階（A：よくできている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
げんきな体 ゆたかな心	「やってみたい」を 「やってみよう」に！	保育者や友達と関わりを持ちながら安心して生活や遊びを楽しむ姿がある	異年齢で散歩に出かけたりダンスをしたりすることで生活や遊びの中で自然と他クラスの友達との関わりが増え「一緒に～しよう」と誘い合う姿が見られた。保育者は、自主性が育まれるような援助を心がけ声掛けなどを行ったことで、子ども同士の関わりや「やってみよう」とする姿が増えた	A	A	・小学校の始業式、終業式でも全員が前に出て話をする機会を作っている。はじめは話せなかった子も待ってあげ聞く態勢をとってきたところ、今は上手に話せるようになってきた。 こども園では、誕生会の司会など表現する場作りを行っている。挑戦している姿をみんなが認めながら自己肯定感を育める場を設けることの大切さを感じる。 ・発表会では隣に座った保護者の方が成長を喜び涙する場面があった。劇の台詞を自分たちで考える等、子どもから発信されている姿が見られ、今まで経験したことが次に生かされているように感じる。	・子ども一人一人の状況に合わせた丁寧な関わりを続けていくとともに、ケース討議で子どもの様子を話し合い職員で共有していく ・異年齢交流の時間を設けていく
		試したり、工夫したりしながら「やってみよう」と意欲的に遊ぶ姿がある	園庭の金木犀やセンダンの実で見立て遊びをしたり、安倍川でマットを使用し川の流れの体験や磁石で蛇紋岩探しをしたり等、自然物を使いながら試したり、工夫したりする姿があった。室内の廃材コーナーを利用し、自分のイメージを形にする姿も見られた	B	A		・子どもの「やってみたい」を見逃さずに寄り添いながら、「やってみよう」につなげていく ・素材や道具を考えながら試したり、工夫したりできる環境を作っていく
		「やってみたい」思いや感じたことを自分なりの方法で表現する姿がある	子ども同士で話し合い発表会の台詞を考えたりあべっ子祭りを行ったり、誕生会の司会や舞台発表にも挑戦する等、思いや感じたことが表現できる場を大切にした。保育者が思いや感じたことを認めていくことで、子ども同士で「それいいね」と認め合う姿も見られた	B	A		・子ども達が発信しやすい雰囲気づくりをしていく ・認めらる体験をくり返しながら、自信を持ち自己肯定感が高められるようにしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児一人一人の「育ってほしい姿」をふまえて家庭や他機関と連携をとりながら個に応じた援助を行っている	打ち合わせファイルに個々の欄を作り、毎日の遊びや生活の様子、伝達事項を記入することで家庭との伝達漏れが無いようにした。言語教室を見学し得たことや支援センターやこども病院からの助言を職員で共有したことで同じ援助ができ、個々の成長が見られている	B	B	・「やってみよう」を見つげようとする保育教諭の意識の高さを感じる。廊下の【やってみようをみつけよう！】から保護者の感想が聞かれるようになり、経営方針が保護者にも浸透しているように思う。	・会議で個の「育ってほしい姿」を伝え合い共有し、個々に応じた援助を行っていく ・保護者や他機関との連携をとっていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	生活に必要な習慣や身の回りのことを自分からやってみようとする姿が育つように努めている	靴やトイレのサンダルを揃える姿や、席を立った際に椅子を机にしまうなどの姿が自然と見られるようになった。合同保育を行う中で友達に刺激され自分から片付けや着脱などを「やってみよう」とする姿が見られるようになった	B	A	・小学校から出ている「美和だより」にトイレのスリッパを揃える姿が記載されていた。学校では「環境を整えた方が気持ちがいいよね」と声を掛け、子どもたちなりに動いている。こども園の時からそれができているのは素敵なことだと思う。 次の人のことを考えて動くのは難しいが、繰り返し行うことで身につけていくと思う。園で繰り返し声を掛けてくれたおかげだと思う。	・片づけ等がしやすいよう物の配置や動線を考えていく ・自分でやろうとする姿を認め、保育教諭は「待つ」「見守る」を心掛けていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「やってみよう」とする遊びや生活の姿を写真に撮り「10の姿」にあてはめながら子ども理解に努めている	保護者にも見やすいように「やってみようを見つげよう！」と題し、子ども達の「心動かされるものへの出会い」や「好奇心」「気付きや発見」等を写真とコメントにまとめ掲示した。他の保護者から「～君、すごいね」と声を掛けられることもあった。	B	A	・家ででも玄関の靴を並べる姿が見られた。園で行ってくれているからかと思う。「美和だより」の「靴の整頓は心の整頓」につながっていると感じた。 ・減災教育として、子どもと一緒に室内の安全な場所を探したり、地震の際はカエルの姿勢になったりすることを、子ども達が家庭に帰り保護者に伝えているのではないかと思う。	・写真での掲示については貼りだす時期を決めていく ・貼りだした日には、保護者にも声を掛け共有を図っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練、不審者訓練の反省やヒヤリハットを記録し、課題を明確にしながら事故防止や安全確保に努めている	避難訓練、不審者訓練をシチュエーションを変えて行い、災害時に安全な場所はどこか子ども達と話し合い「おはしも」の約束を確認するなどの減災を行った。水害を想定し近隣田地や安倍口小学校の4階に上がるなどの訓練も行った	A	A	・自治会でも防災の講演会を行うなど新しい取り組みをしていくことで、役員の意識が高められている。常に話し合いを持っていくことで子ども達も自ら考え動くことができていると思う。	・訓練後のクラス反省を職員会議で話し合っていく ・災害時に慌てずに動けるよう、色々な災害を想定し訓練を行い、その都度、子ども達と振り返りをしていく。園のハザードマップを作る
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもたちと一緒に栽培や収穫、食育活動を行い、健康的に過ごせるような環境を作っている	季節の野菜を栽培してクラスでカレーやジャガリコ作りなどのクッキングを行うことで、苦手な物でも少しずつ食べられるようになった。また、親子で種植えや収穫をし一緒に味わうことで保護者とも食育活動を共有することができた	A	A	・自分たちが野菜を栽培し地域の方にプレゼントしていくことで地域との関わりも増えるなど環境への取り組みもみられる。また、苦手な野菜にチャレンジできていることは評価でき、園の食育活動の成果だと思う。	・苗の植え付け、収穫にとどまらず、子どもと一緒に野菜の生長を見守られるようにしていきたい ・野菜の苗植えや収穫時期を可視化した表づくりを子どもと一緒にしていきたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	参加会や面談を行い保護者との話し合いを持ったり加配会議でケース検討を行ったりし、支援方法を共有している	乳児ふれあい会で子どもの様子を見てもらったり懇談会で話し合いをしたりし、子どもの様子を保護者と共有することができた。加配担当では、期のサポート面談を行うことで、成長の様子を保護者と話し合うことができた	B	B	・勤務時間が違う職員について伝達方法を徹底していけるとよい。 ・新しい教材について、使用した際は作品を飾るだけでなくそれについての説明もほしい。	・乳児はクラス懇談ではなく個々の成長が話し合えるよう個別面談を行っていく ・計画を立て、加配会議、ケース討議を行っていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	報告、連絡、相談をし意見交換を行いながら、保育教諭や調理員が自分の役割を意識して園運営に努めている	前日の打ち合わせにより内容を再度確認、共有し、当日は自分の役割を意識し取り組むことができた。会議でケース検討を行い各クラスの振り返りをしていくことで、子ども達やクラスの様子を職員間で共有でき、担任だけでなく全職員で見守り声を掛け、子ども達の「やってみよう」とする姿を後押しすることができた	B	A	・今年度は美和小学校の朝のランニングや縄跳びに参加するなどの交流がもて良かった。小学校に行き同じクラスになる子もいるので、安倍口こども園だけでなく、美和保育園とも交流を図ってくれればと思う。 ・写真がコドモンで拡大できないのは残念だが、こども園での配信が一日の楽しみになっている。	・各会議の報告が時間帯の違う職員にもなされるよう組織伝達表を作っていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	公開保育で保育を見合い、事後研修で「10の姿」を用いながら子ども理解を深めていく	各クラス公開保育を行い職員で保育を見合いながら、共通の場面について話し合うことができた。また、事後研修で「就学までに育ってほしい10の姿」の項目にあてはめながら子どもの様子を伝え合うことで、より深く子どもの成長や気付きを感じることができた	B	B	・子ども達が近くのスーパで買い物をするので、お店の方に聞いたり、どこに何があるのかが分かったりなど、地域を知るきっかけになり、つながりがもてることは良いと思う。	・公開保育での学びを保護者にも発信していく ・多くの職員が公開保育や事後研修に参加できるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	教材研究を行いながら「やってみよう」と思える環境作りを行っていく	教材研究として職員が得意分野から得た情報を発表し合い、キットパスを使いホール窓に自分の好きな物の絵を描いたり、シェーピングローションを使用したハロウィンの作品に取り組んだりなど、各クラスで新しい教材を取り入れた実践や体験ができた	B	A		・教材研究を継続していく ・安倍川や地域に出て自然物の教材研究を行うなど研究の場を広げていく ・園庭環境について見直しを行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	写真やパワーポイント、コドモンからの手紙で日々の様子を伝え、園児の育ちや学びを家庭と共有している	行事のドキュメンテーションを作成やコドモンにより食事や排泄等の生活状況や遊びの写真、つぶやきを配信した。降園時、伝達ノートを利用し、担任ではなくても個々の遊びや生活の様子を保護者に伝達することができた	A	A		・コドモンだけでなく降園時を利用し、保護者に子どもの様子を口頭で伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園と散歩に出かけたり、給食参観や公開保育、公開授業に参加したりし連携を深めている	静岡交響楽団のコンサートや体操教室、海の生き物教室を一緒に行うなど、安倍口こども園と年間計画を立て交流をもった。安倍口小学校、美和小学校の授業参観に参加し、子ども達と一緒に学校探検にでかけ連携を深めることができた	A	A		・年間計画を立て、近隣園や近隣校と交流をおこなっていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	自分たちが住んでいる地域に親しみを感じ豊かな生活体験が得られるよう地域資源をいかしながら交流を図っている	地域の老人会や未就園児の会で園児が歌やダンスを披露したり、園で収穫した野菜や手作りカレンダーを地域の方にプレゼントしたりし地域に親しみがもてるようにした。クッキングに使用する物を子ども達と一緒に近くのスーパで購入するなど、食材や数字に触れる機会を作った	A	A		・安倍川に行く機会が昨年に比べ減ってきているため、季節や気温を考えて計画をたて散歩に出かけるようにしていく